

G-DINK 250i
SCOOTER E4

取扱説明書



KYMCO

⚠ 警告

本スクーターの電子燃料噴射装置への損傷を避けるため、メインスイッチが「オン」になった状態で、バッテリーワイヤーを外したり、取り付けたりしないでください。

ガソリンは、スタートしない現象を引き起こすことになる、車両の不使用または長期保管による劣化の原因となる可能性があります。環境や、速い速度、スタートや停止の多用、極端な乗車習慣などの苛酷な条件下で運転する場合は、点検の頻度を増やしてください。

スクーターを駐車する時には、乾いた草や葉などの可燃性物質が排気システムに接触しないようご注意ください。

本マニュアルをよくお読みください。

本取扱説明書には、**KYMC O G-DINK 250i**スクーターの安全性、操作、メンテナンスに関する重要な情報が含まれています。スクーターに乗車する前に、スクーターを運転するすべての人が、本マニュアルの内容を注意深く読み、理解するようにしてください。安全のため、本取扱説明書およびスクーターに貼られたラベルに記載されているすべての警告をよく理解し、これらに従ってください。本取扱説明書は、車両の永久的な一部とみなし、常にスクーターと共に保管するようにしてください。本スクーターは舗装された公道での使用を意図して設計されています。

本マニュアルでは、特に重要な情報には、次のアイコンおよび表記が付記されています。



 警告

 注意

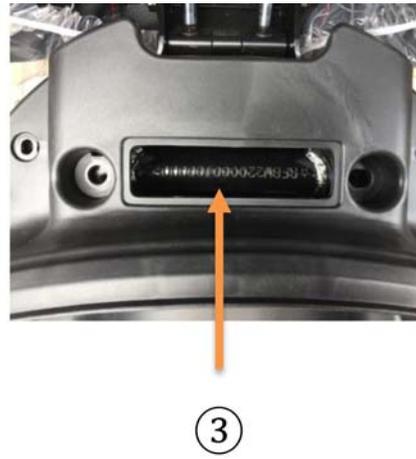
■ 注記

三角形の中に感嘆符の入った安全警報シンボルは、**注意！警告！**安全に影響を及ぼす可能性あり、を意味しています。警告シンボルに関連した指示に従わなかった場合、ライダーやパッセンジャー、第三者、本スクーターの点検または修理の担当者に深刻な損傷あるいは死亡をもたらす可能性があります。

注意シンボルは、本スクーターへの損傷を避けるために、特に注意する必要があることを示しています。

注記シンボルは、手順に関連した重要な情報を記載したり、操作についてわかりやすく説明するためのものです。

識別番号の記録



1. 車両識別番号 (VIN)

2. エンジンシリアル番号 (ESN)

3. フレームシリアル番号 (VIN)

今後の参照のために、上記の欄に車両識別番号①、エンジンシリアル番号②、フレームシリアル番号③を記録してください

目次

| | | | |
|----------------------------|-----------|----------------------------|-----------|
| 第1章 - | 1 | 第4章 - メンテナンス | 26 |
| 前書き&安全上のご注意..... | 1 | メンテナンススケジュール..... | 27 |
| スクーターの安全性..... | 2 | エンジンオイル | 30 |
| アクセサリ&改造 | 4 | エンジンオイルの交換..... | 31 |
| パーツ&制御装置の位置..... | 5 | トランスミッション液の交換..... | 33 |
| 第2章 - 制御&機能 | 8 | エアフィルターエレメントの交換..... | 34 |
| メインスイッチ..... | 8 | スロットルの作動..... | 34 |
| セキュリティシャッター..... | 9 | スパークプラグ | 35 |
| メーター計器..... | 10 | クーラントレベルの点検 | 36 |
| アンチロックブレーキシステム (ABS) | 13 | クーラントの交換..... | 37 |
| 多機能メーター - デジタル時計 | 14 | ブレーキオイルレベルの点検..... | 38 |
| 右ハンドルバースイッチ..... | 15 | バッテリー&ヒューズ..... | 40 |
| 左ハンドルバースイッチ..... | 17 | タイヤ..... | 41 |
| 燃料計の点検 / 補充 | 18 | スクーターの洗車..... | 42 |
| シート | 19 | メモ 第5章 - 排ガス規制..... | 43 |
| サスペンション | 20 | クランクケース排ガス浄化システム | 43 |
| 携帯電話ソケット (12V) | 21 | 第6章 - 諸元表..... | 44 |
| 携帯電話ソケット (USB) | 21 | | |
| 第3章 - 運転..... | 22 | | |
| 乗車前の点検..... | 22 | | |
| エンジンの始動..... | 23 | | |

第1章 -

前書き & 安全上のご注意

本製品、**KYMC O G-DINK 250i**スクーターをお買い上げいただきありがとうございます。
乗車する前に、本スクーターの制御装置の正しい操作方法、特徴、機能および制限について十分にご理解いただくため、本取扱説明書をご一読ください。

スクーターを問題なく末永くご利用いただくため、本マニュアルの記載に従って、適切なお手入れとメンテナンスを行ってください。

交換用パーツやアクセサリには、**KYMC O**純正部品を常に使用してください。お客様の車両用に特別に設計及び製造されたもので、**KYMC O**の要求水準を満たしています。本取扱説明書は常にスクーターと共に保管し、情報が必要な時にいつでも参照できるようにしてください。本マニュアルは車両の永久的な一部とみなし、売却時にはスクーターに本マニュアルを付属するようにしてください。

本マニュアルに記載されているすべての情報、イラスト、写真、および仕様は、出版時に入手可能な最新の製品情報に基づいたものです。改造やその他の変更により、本マニュアル内の情報がお客様の実際の車両と若干異なる場合があります。**KYMC O**は、通知することなく、また何の義務も伴わずに、いつでも製品や出版物を変更できる権利を留保します。

スクーターの安全性

重要な安全に関する情報

安全に対する自己責任を持ち、路上で直面する可能性のある問題について理解しておくことで、スクーターの耐用年数を延ばすことができ、長年に渡り愛用できます。乗車時に自身を守るためにできることはたくさんあります。本マニュアルを通して、役に立つ様々なアドバイスをご紹介します。非常に重要な安全に関するアドバイスをいくつかご紹介します。

ヘルメットを着用する

スクーターの安全装備は高品質ヘルメットから始まります。交通事故で負う最も深刻な損傷の1つは頭部の損傷です。適切に認可されたヘルメットを常に着用するようにしてください。適切な目を保護する装備も着用するようにしてください。

人の目に留まりやすくする

自分の姿を見えやすくするため、反射性の明るい衣服を着用し、他のドライバーが目で確認できる位置に来るようにして、曲がる時や車線を変更する時には合図を送り、また、他の人に気づいてもらうために有効な場合はクラクションを鳴らしてください。

自分自身の限界を知る

常に自分の技能の範囲内で乗車するようにしてください。これらの限界を知り、その範囲内に留まることが事故防止に役立ちます。

スクーターを安全な状態に保つ

安全に乗車するためには、毎回乗車する前にスクーターを点検し、推奨されるすべてのメンテナンスを実施することが大切です。重量制限は絶対に超えないようにして、本スクーター用にKYMCOが公認しているアクセサリのみを使用するようにしてください。

乗車する前にスクーターを点検する

乗車する前には、ライダーとパッセンジャーの安全性を確実なものにするため、毎回すべての安全点検を必ず行うようにしてください。

天候が悪い日には特に安全に注意する

天候の悪い日、特に雨の場合には注意が必要です。雨の日には停止距離が2倍に伸びることがあります。特に滑りやすくなっている場合があるため、塗装された表面、マンホールカバー、舗道が泥や油で汚れているように見えるエリアは避けてください。鉄道の踏切や金属格子、橋には特に注意が必要です。道路の状況が疑わしい場合は、常に速度を落とすようにしてください。

改造

スクーターを改造したり、正規の備品を取り外すと、車両の安全性が失われたり、違法となる可能性があります。お住いの地域に適用される、すべての備品に対する規制に従うようにしてください。

スクーターの安全性

保護用の衣服

安全のため、スクーターに乗車する時にはいつでも、認可されているオートバイまたはスクーター用のヘルメット、目の保護具、ブーツ、手袋、長ズボン、および長袖シャツまたはジャケットを着用してください。

ヘルメットと保護

頭部への損傷を防ぐために最も有効なヘルメットは、ライディングに最も重要な装備です。ヘルメットは頭部にしっかりと快適に着用できるものである必要があります。目を保護して視界を補助するため、フェイスシールドまたはゴーグルを常に着用してください。

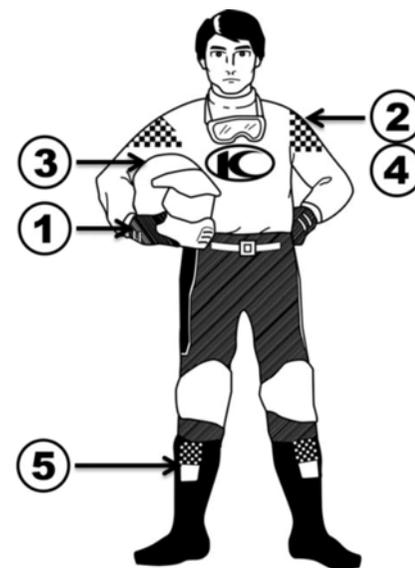
その他のライディング用装備

ヘルメットと目の保護具以外にも、次を利用することができます。

- 足と足首を保護するために役立つ、靴底が滑り止めになった頑丈なブーツ。
- 手を温かく保ち、まめや切り傷、やけど、打撲から保護するために役立つ皮の手袋。
- 快適さと保護を目的に設計されたオートバイまたはスクーター用のライディングスーツまたはジャケット。明るい色の反射性の衣服を着用することで、路上のライダーは目に留まりやすくなります。スクーターのパーツに引っかかる恐れのある、ゆったりした衣服は避けるようにしてください。

⚠ 警告

ヘルメットを着用しなかった場合、事故で重傷を負ったり死亡したりする可能性が高くなります。



1. 手袋を着用すること
2. 衣服は適切にフィットするものを選ぶこと（きつ過ぎたり、ゆったりし過ぎないもの）
3. 常にヘルメットを着用すること。目を保護する装備を常に着用すること
4. 明るいあるいは反射性の衣服を着用すること
5. 靴は適切なサイズで、ヒールが低く、足首を保護するものを選ぶこと

⚠ 警告

ライダーとパッセンジャーは、適切にフィットする認可されたオートバイ用のヘルメットを常に着用するようにしてください。乗車する時には、目の保護具やその他の保護衣服も着用するようにしてください。

アクセサリ & 改造

KYMCОスクーターをご購入いただくと、豊富な種類のアクセサリをご利用いただけます。ライダーが購入を希望する可能性のあるアクセサリの品質やその適合性は、KYMCОが直接管理できるものではありません。不適切なアクセサリをスクーターに追加することで、危険な運転状況につながる可能性があります。市場で販売されているすべてのアクセサリや、入手可能なすべてのアクセサリの組み合わせをKYMCОがテストすることは不可能です。しかしながら、KYMCО正規販売店では、高品質アクセサリの選択やそれらの適切な取り付けに対してサポートを提供しています。

スクーターに使用するアクセサリの選択や取り付けには、十分な注意が必要です。

改造しないでください

KYMCОでは、正規の備品の取り外しや、スクーターのデザインや操作を変更するような改造はしないよう強く推奨しています。

警告

不適切なアクセサリや改造は、スクーターを危険にさらす可能性があり、事故につながる場合があります。不適切な取り付けやアクセサリを使用して、スクーターを改造することは絶対にしないでください。本スクーターに追加するパーツやアクセサリはすべて、KYMCО純正部品またはそれに相当する本スクーター用に設計された部品を使うようにしてください。また、指示に従って取り付け、使用するようにしてください。ご質問がある場合は、KYMCО正規販売店にお問い合わせください。

パーツ & 制御装置の位置

1. リヤブレーキレバー
2. 携帯電話ソケット
(12V12W/1A)
3. シート
4. テールランプ、停止灯
5. 反射リフレクター
6. クーラントリザーバー
7. サイドスタンド
8. エアクリーナー



■ 注記：お客様のスクーターの外見は、本マニュアルに記載されている画像と若干異なる場合があります。

パーツ & 制御装置の位置

9. リア ウィンカーランプ
10. マフラー
11. オイルフィルターキャップ/オイルケージ
12. 後部パッセンジャー フットペグ
13. 燃料フィルターキャップ
14. フロントシールド
15. 携帯電話ソケット (USB)
(5V/2.1A)
16. バッテリーとヒューズ
(座席の下)



■注記：お客様のスクーターの外見は、本マニュアルに記載されている画像と若干異なる場合があります。

パーツ & 制御装置の位置

17. フロントブレーキレバー

18. ヘッドランプ

19. フロント ウィンカーランプ



■注記：お客様のスクーターの外見は、本マニュアルに記載されている画像と若干異なる場合があります。

第2章 – 制御&機能

1

メインスイッチ

メインスイッチとその機能を操作します。

 の位置：

すべての電気回路がオフになっています。エンジンはスタートも稼働もしません。

•  の位置：

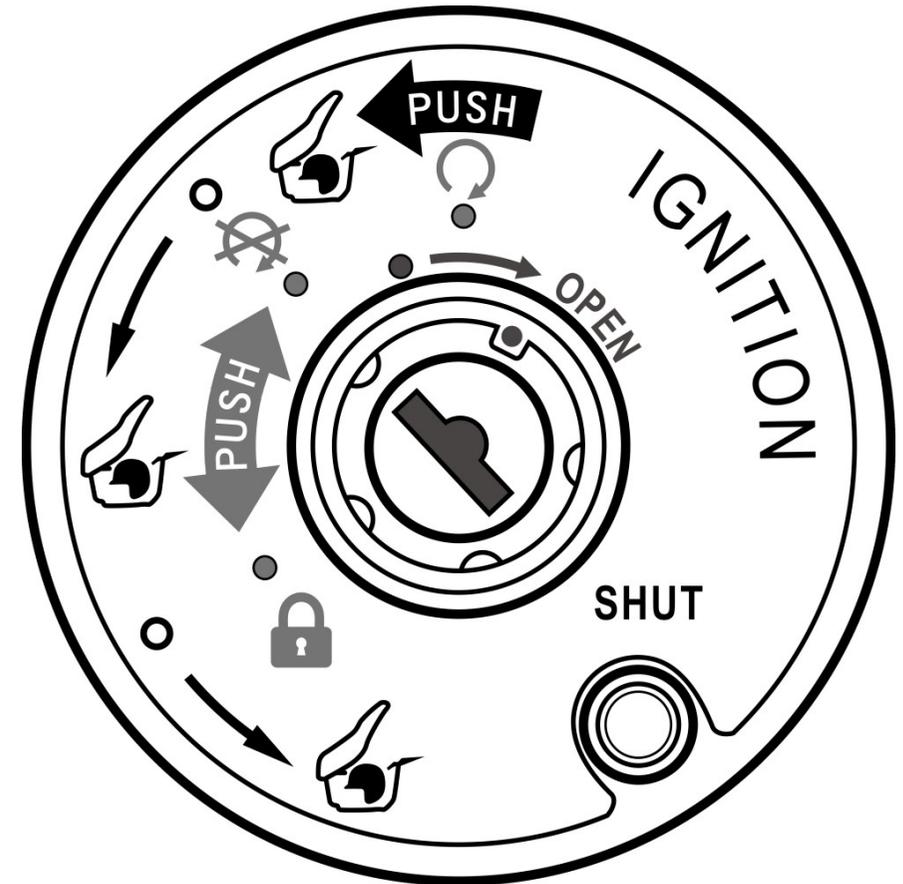
メイン回路が「オン」になっており、エンジンをスタートすることができます。この位置にある場合、メインスイッチからキーを外すことはできません。

 の位置：

ステアリングをロックするには、ハンドルバーを左いっぱいにして押し下げ、キーを「」の位置に回してからキーを外します。すべての電気回路はオフになっています。

 の位置：

イグニッションキーが「」の位置にします。座席のロックを外して持ち上げるためのものです。



制御&機能

セキュリティシャッター

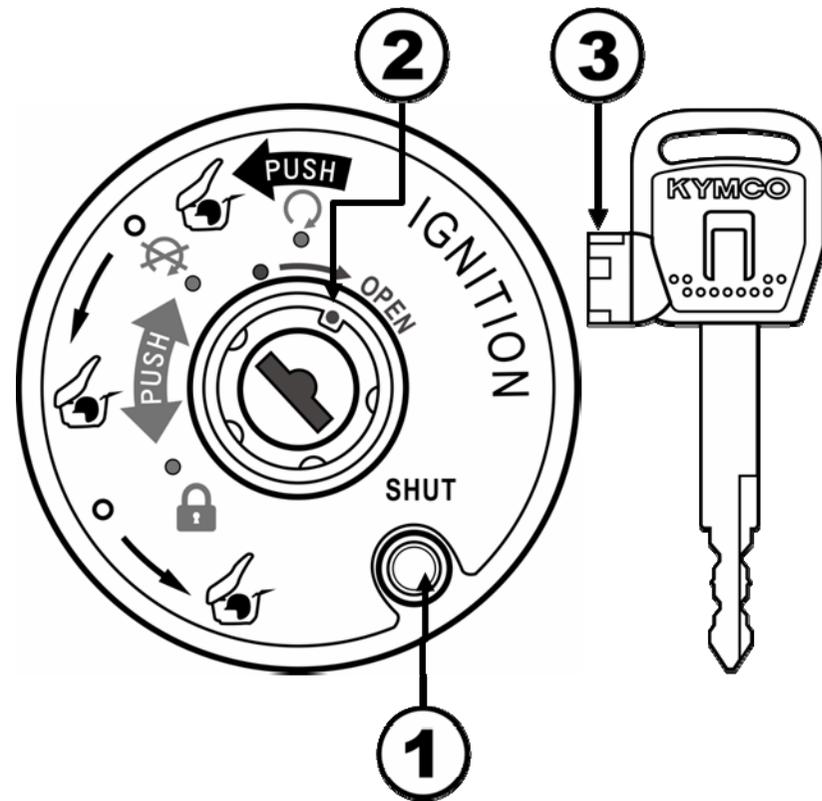
メインスイッチのセキュリティシャッターを閉じる方法：

メインスイッチカバーの閉ボタン①を押すと、シャッターが閉まります。

メインスイッチのセキュリティシャッターを開ける方法。フィリスター②に、マグネットキー③を挿入します。

時計回りに回すと、セキュリティシャッターが開きます。

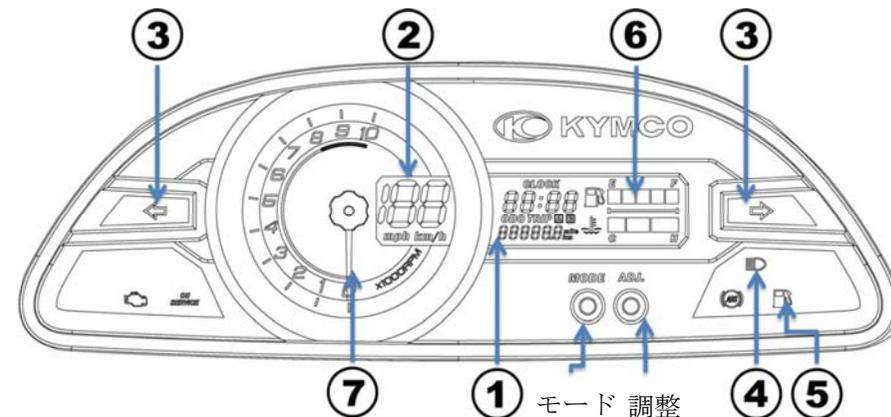
キーには、キーに付属するタブに型打ちされている固有コードがあります。このコードはスクーターには型打ちされておらず、安全上の理由から、車両の基本書類にも記録されていません。キーを交換する時にはこのコードが必要になるため、本書内に提供されている空白欄にこの重要なコードを記録しておいてください。本取扱説明書の裏表紙にあります。



制御&機能

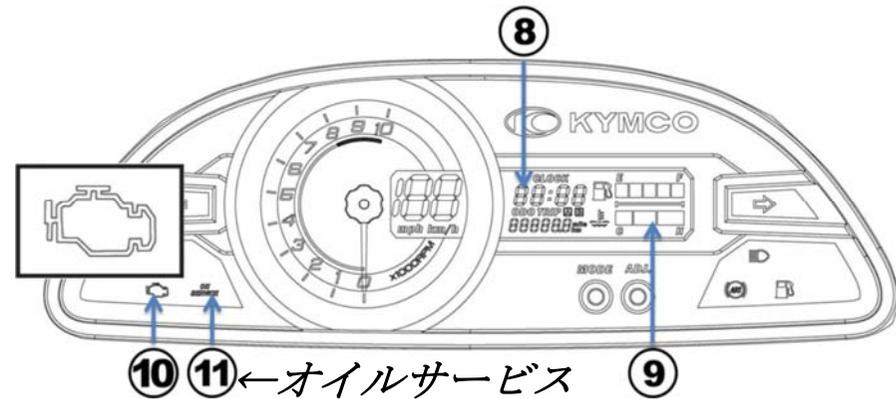
メーター計器

1. 走行距離計/トリップメーター：「モード」ボタンを押して、総合走行距離,ODOと走行距離TRIPを切り替えます。
 - 「調整」ボタンを2秒間長押しして、ODO、TRIP (A、B)、SERVICEモードを表示します。
(EURO 4 モデルはTRIPのみで、A・Bはありません)
 - TRIPモードで「調整」ボタンと「モード」ボタンを同時に押すと、数字が自動的にリセットされます。
2. スピードメーター：道路での速度をKm/h（1時間あたりのキロメートル）で表示します。
3. ウィンカー表示灯：どちらかのウィンカーが使用されている時に点滅します。
4. ハイビーム表示灯：ヘッドライトのハイビームがオンになっている時に点灯します。
5. 燃料補給インジケータ「」：ガソリンタンクがほぼ空になった時に、できる限り早くタンクを補充する必要があることを警告するために点灯します。
6. 燃料計
7. 回転速度計：1分間当たりの回転数（RPM）でエンジン速度を表示します。



制御&機能

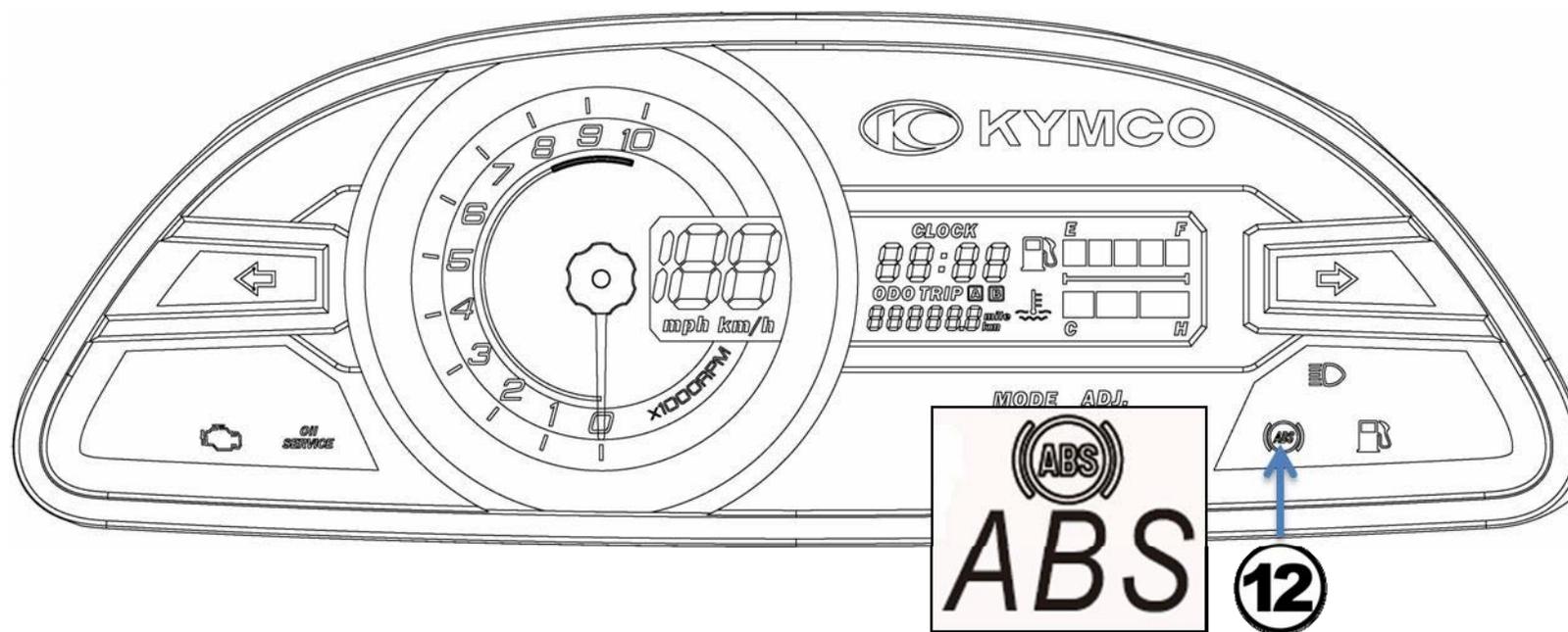
8. 時計：FI（燃料噴射）システムに異常が発生した時には、整備士が参考にできるよう欠陥コードも表示します。（EURO 4モデルではコードは表示されません）
9. 冷却水温度計。
10. CELPインジケータ：点滅している場合（EURO 4モデルでは点灯し続けます）、EFIまたは電気系統に障害が検出されたことを示します。公認のKYMCO正規販売店が直ちに点検する必要があります。
 - 注記：CELPインジケータは、エンジンが稼働する前にスクーターがオンになった時にも一瞬点灯します。
11. オイルサービスインジケータ：スクーターがオイル交換の時期に達した時に点灯します。イグニッションがオンになった時にも点灯しますが、エンジンの稼働とともに消えます。
 - SERVICEモードで「調整」ボタンと「モード」ボタンを同時に押すと、インジケータは自動的に消えます。（EURO 4モデルはTRIPのみで、A・Bはありません）



制御と機能

12. ABS表示灯

メインスイッチがオンになった時に点灯し、セルフチェックとABSシステムの確認を行います。車両が動き出した直後にオフになります。



システムのマイクロプロセッサがABSの障害を検出した場合にはABSインジケータが点灯し、障害が修復されるまで点灯し続けます。

インジケータが点灯し、スクーターが動き出した後にも点灯し続ける場合は、ABSシステムが機能していないことも示しています。

ABSシステムに障害があった場合でも、従来のブレーキ系は正常に機能し続けます。

■ 注記：ABS表示灯が障害を示した場合には、修理のためスクーターをKYMCO正規販売店に預けてください。自分で修理を試みないでください。

制御と機能

アンチロックブレーキシステム (ABS)

説明

ABSは、直線に走行している時にブレーキを強く踏んだ際に、車輪がロックアップされるのを防止するために設計されたものです。ブレーキ力を断続的にかけたり解放したりすることでABSが自動的にブレーキ力を調整するため、車輪のロックアップの防止に役立ち、停止中の安定したステアリング制御を可能にします。

ブレーキ制御機能は、従来の車両と同じです。ブレーキレバーはフロントブレーキとリアブレーキに使用されます。

ABSは車輪のロックアップを防止することで停止中の安定性を提供しますが、次の特徴に注意してください。

- ABSは悪い道路状況や誤判定、不適切なブレーキの適用を埋め合わせることはできません。ABSを搭載していないスクーターと同様に、乗車にあたり注意する必要があります。
- ABSはブレーキの距離を短くするために設計されたものではありません。緩んだ表面や、段差のある表面、あるいは下り坂では、ABSを搭載した車両の停止距離はABSを搭載していない同等の車両と比べてより長くなる場合

があります。このような状況では特に注意するようにしてください。

- ABSは、直線走行時にブレーキをかけた場合の車輪のロックアップ防止に役立ちますが、コーナリングでブレーキをかけた時に発生する車輪の滑りを制御することはできません。
- コーナーを曲がる時には、両方のブレーキを軽くかけるだけにとどめておくか、まったくブレーキをかけないほうが得策です。コーナーに入る前に速度を落とすようにしてください。
- ABSマイクロプロセッサ（コンピュータ）は、車両の速度と車輪速度を比較します。タイヤのサイズがKYMCOが推奨する大きさと異なる場合、車輪の速度に影響が出る可能性があります。これによりマイクロプロセッサが混乱し、ブレーキの距離が長くなる場合があります。

警告

推奨されないタイヤを使うことでABSが誤動作し、ブレーキ距離が長くなる場合があります。結果として、ライダーが事故を起こす可能性もあります。スクーターには推奨されるサイズのタイヤを常に使用するようにしてください。

制御と機能

注記：

- ABSの作動中にブレーキレバーに振動を感じることがありますが、これは正常です。このまま通常通りにブレーキをかけてください。
- 道路での速度が約 6 MPH (10km/h)以下の場合、ABSは機能しません。

バッテリー電圧が極度に低い場合、または電力の供給に中断があった場合には、ABSは機能しません。この場合、ABS表示灯が点灯します

多機能メーター - デジタル時計

イグニッションがオンの時、時計には時間が時分単位で表示されます。

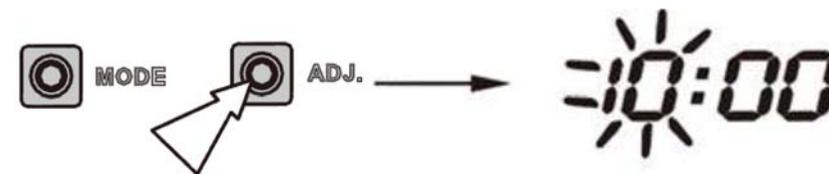
時計の時間を手動で調節するには、次の手順を実行してください。

1. メインスイッチを「オン」にします
 2. ADJ.ボタンを2秒以上長押しして、ODOモードを選択します。
- 注記：デジタル時計はODOモードでのみ調節できます。時計の時間を調節したい場合、トリップメーターモードまたはオイルサービスマーターモードは選択しないでください。

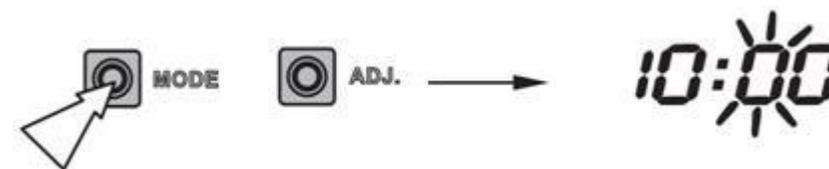
3. MODEボタンとADJ.ボタンを同時に2秒以上長押しします。「時間」の数字が点滅し、時計の時間が調節できることを示します。



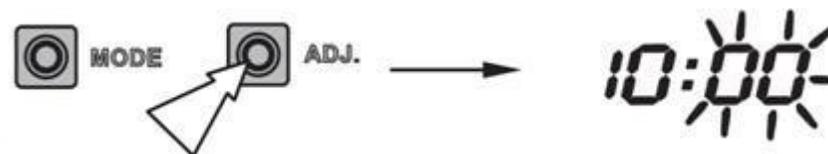
4. 時間の表示を設定するには、正しい「時間」になるまでADJ.ボタンを押します



5. 分の表示を設定するには、「分」の数が点滅するまでMODEボタンを押し続けます



6. 分の表示を設定するには、正しい「分」になるまでADJ.ボタンを押します



制御と機能

7. 時計の設定を終了するには、MODEボタンとADJ.ボタンを同時に押します。表示の点滅が自動的に止まります。約10秒の間ボタンが押されなかった場合、最後に設定した数値で設定が保存され、一般的な表示に戻ります。



右ハンドルバースイッチ

エンジン停止ボタンが②「」の場合：
電気スターターボタン①を押してスターターモーターを始動します。

- 注記：スターターボタンが押されると同時にブレーキレバーも握られない限り、スターターモーターは始動しません。

エンジン停止スイッチが②「」の場合：
メイン回路がオフになっています。エンジンはスタートも稼働もしません。

「」の場合：

エンジン停止ボタンが□「」
メイン回路がオンになっており、エンジンをスタートして運転することができます。



制御と機能

右ハンドルバースイッチ

ハザードスイッチ「△」③

「△」この位置の場合、すべてのウインカーが一斉に点滅し、他の通行に対する危険があることを知らせます。「オフ」にするとハザード点滅が中止します。

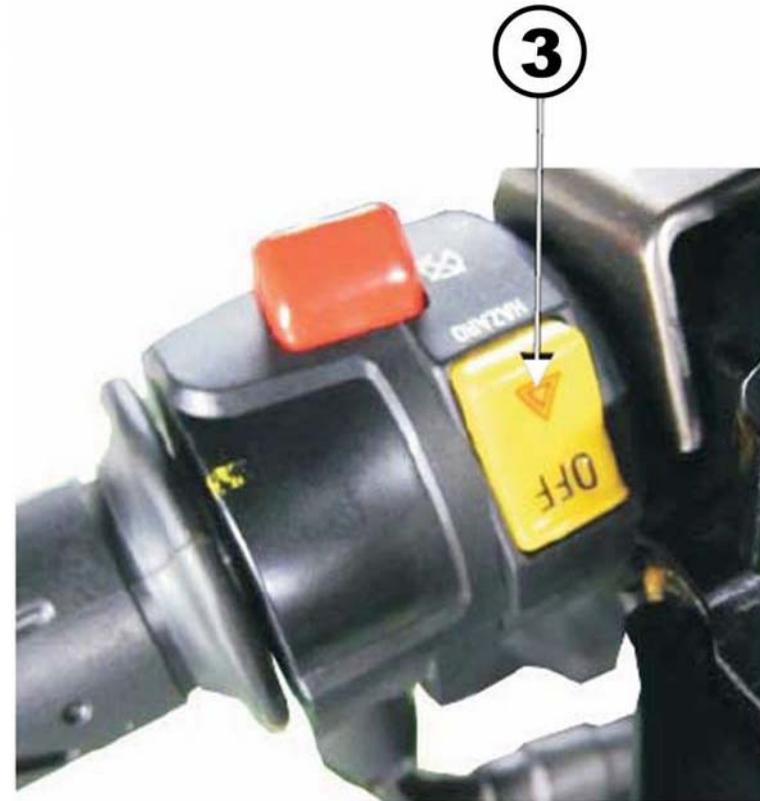
イグニッションが「オフ」の時でもこのスイッチは作動します。

⚠ 警告

危険な場所に駐車する場合や、警告する特別な必要性がある場合は、ハザード点滅スイッチをオンにしてください。ハザードスイッチをオンにすると、自動的にリセットされません。他の通行への混乱を避けるため、使用後は必ず「オフ」にしてください。

⚠ 注意

ハザードを点滅したままの状態です長時間放置しないでください。バッテリーが消耗します。



制御と機能

左ハンドルバースイッチ

ウインカースイッチ ④：

右折・左折や車線変更の意図を他の通行車両に合図する際には、ウインカーを使用します。ダッシュボードにあるウインカーインジケータライトが点滅し、スイッチがオンになっていることをライダーに示します。

「」は「左折」する時に使います。

「」は「右折」する時に使います。

ウインカーを中止するには、スイッチが中央の位置にある時にスイッチを押してください。

ホーンボタン ⑤：

クラクションを鳴らすには、ホーンボタンを押します。

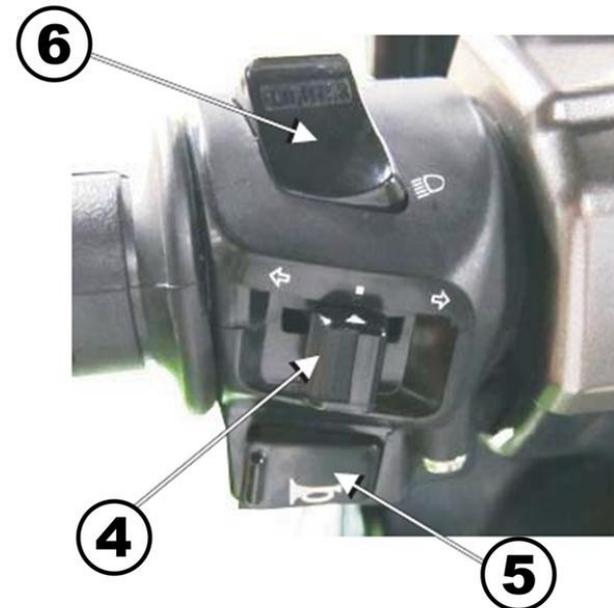
ディマースイッチ ⑥：

「D」スイッチはヘッドライトのロービームをオンにします。

「D」スイッチはヘッドライトのハイビームをオンにします。ダッシュボードにあるハイビーム表示灯も点灯します。

パッシングライトボタン ⑦：

このボタンを使うと、ヘッドランプのハイビームが素早く点滅して、他の車両に通過することを知らせます。



制御と機能

燃料の補充

ダッシュボードにある低燃料補給インジケータが点滅し始めたら、速やかに燃料タンクに無鉛ガソリンを補充してください。

燃料タンクフィルター：

スクーターにガソリンを入れるには、次の手順に従ってください。

1. 燃料キャップの保護カバーを引っ張ります。
2. イグニッションキーを使ってキャップのロックを解除します。
3. キーを時計回りに回してキャップのロックを外します。
4. ロックが外れたら、キャップを持ち上げます。
5. 燃料フィルターのキャップを取り付けるには、燃料フィルターのネックの元の場所に押し戻します。
6. キーを反時計回りに回して、キャップをしっかりと固定してください。
7. キーを外して保護カバーを閉じます

推奨ガソリン

レギュラー以上の無鉛ガソリンを使用して、スパークプラグや排気部品への損傷を防ぐようにしてください。

補給後は、フィルターのキャップをしっかりと閉じるようにしてください。



⚠ 注意

エタノールやメタノールを含む燃料は使用しないでください。このタイプの燃料は、スクーターの燃料システムにある金属部品を腐食する可能性があり、またプラスチックやゴムの部品にも損傷を与える可能性があります。不適切な燃料によって発生した損傷の修理は、本スクーターの限定的保証の対象となりません。

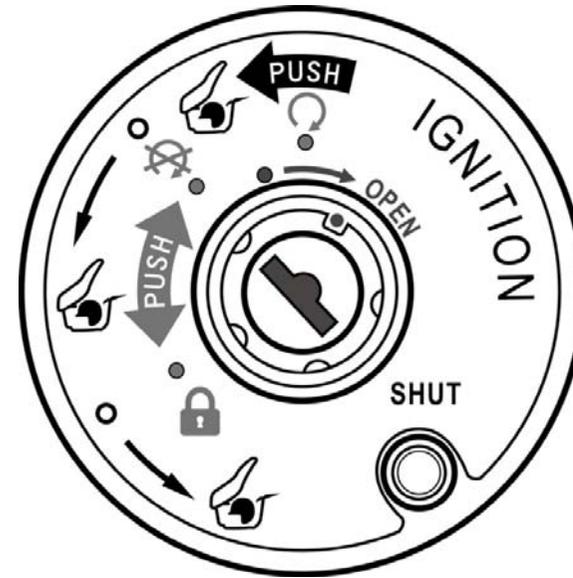
制御と機能

シート

シートのロックを解除する：イグニッションキーが「」にある場合は（エンジンが稼働している時）、キーを押し入れて、反時計回りに「」から「」に回します。

イグニッションキーが「」にある場合は（エンジンが稼働していない時）、反時計回りに「」から「」に回します。

シートの後ろ側を引っ張って持ち上げます。

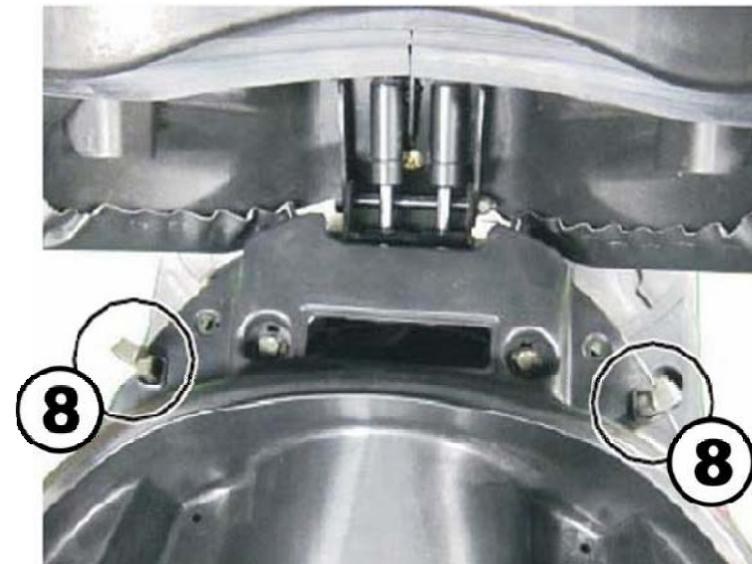


ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーを使用するには、シートを開けてヘルメットの留めファスナーリングをホルダー⑧に留め、シートをしっかりと閉じます。

警告

ヘルメットホルダーは、スクーターを停車している時にのみ使用してください。ヘルメットをホルダーに吊るした状態で乗車しないでください。



制御と機能

サスペンション

スクーターに搭載されているそれぞれのショックアブソーバーには、様々な負荷や乗車条件に対応するため、スプリングプリロード調整位置が5つあります。

リアショック用スプリングプリロードの調整には、ピンスパナを使用します。ポジション1は軽い負荷とスムーズな道路状況に向いています。ポジション3～5はより硬いリアサスペンション向けにスプリングプリロードが増加しており、スクーターに高い負荷がかかっている時に使用できます。

両方のショックアブソーバーを、スプリングプリロードの同じポジションに調整するようにしてください。

標準的なスプリングプリロードのポジション：2番目

⚠ 注意

ショックアブソーバーのプリロードポジションは、常に順番に調整するようにしてください（1-2-3-4-5または5-4-3-2-1）。1から5、または5から1へと直に調整しようとする、ショックアブソーバーを損傷する場合があります。



制御と機能

携帯電話ソケット (12V)

電源ソケットからキャップ(2)を外して、携帯電話の12VDC充電器をソケットに差し込みます。

ダッシュボードの充電表示灯が点灯し、スクーターからの電力が充電器に流れていることを示します。

ソケットの定格出力は**DC 12V, 12W (1A)**以下です。
携帯電話の充電が完了したら、プラグを抜きソケットのキャップを元に戻します。



携帯電話ソケット (USB)

電源ソケットからキャップを外して、携帯電話の5V DC充電器をソケットに差し込みます。(左側コンパートメント)

ソケットの定格出力は**DC 5V, (2.1A)**以下です。

携帯電話の充電が完了したら、プラグを抜きソケットのキャップを元に戻します。



第3章 – 運転

3

乗車前の点検

安全のため、乗車する前には毎回スクーターの周りを一周し、状態を確認する時間をとることが非常に重要です。問題を発見した場合は、早急に対処するか、KYMCO正規販売店に修正を要請してください。

警告

スクーターのメンテナンスが不適切であったり、乗車する前に問題を修正しなかった場合事故へとつながる恐れがあり、深刻な怪我あるいは死亡事故を引き起こす可能性があります。

乗車前には、必ず毎回乗車前の点検を実施して、問題があれば修正してください。

1. エンジンオイルのレベル：必要に応じてエンジンオイルを足してください。漏れがないか確認してください。
2. ガソリンの残量：必要に応じて燃料タンクを補給してください。漏れがないか確認してください。
3. フロントブレーキおよびリヤブレーキ作動を確認

してください。ブレーキオイルが漏れていないことを確認してください。

4. タイヤ：状態と空気圧を確認してください。
5. スロットルスムーズに作動しているか、またすべてのステアリングポジションで完全にスロットルが閉まっているか確認してください。
6. ライトとホーン：ヘッドライト、尾灯・ブレーキライト、ウインカー、インジケーターおよびホーンが正常に機能しているか確認してください。
7. ステアリング：状態と円滑さを確認してください。

運転

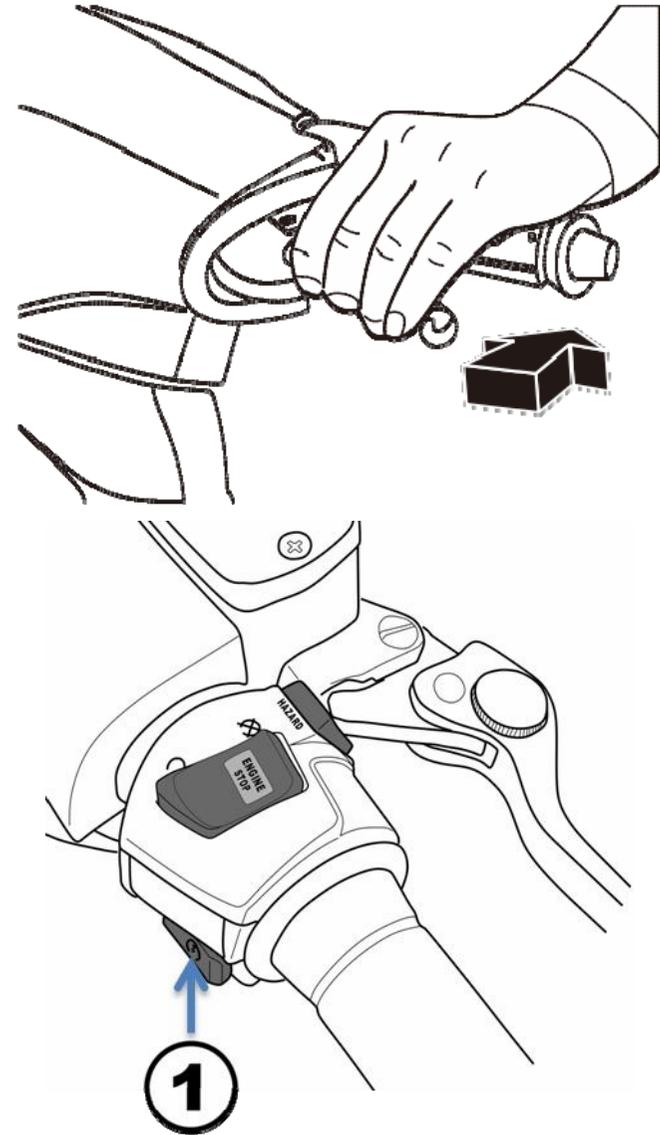
3

3. 左（リヤ）ブレーキレバーを握りしめます。
 - 注記：電気スターターは、左（リヤ）または右（フロント）ブレーキレバーを握りしめている時にのみ作動します。
4. スロットルが閉じている状態で、スターターボタン①を押します。エンジンが始動したら、すぐにスターターボタンを離してください。

⚠ 注意

油圧が不十分な状態でスクーターのエンジンを稼働すると、エンジンに重大な損傷を与える可能性があります。

5. エンジンを温めている間は、スロットルを閉じたままにしてください。
6. 乗車する前に、エンジンを完全に温めてください。



メモ

第4章 – メンテナンス

メンテナンスの重要性

安全かつ経済的に、問題のない運転を楽しむためには、スクーターを適切にメンテナンスすることが不可欠です。空気汚染を削減するためにも役立ち、燃費を最大限にまで高めます。

スクーターの適切なケアに役立つように、本取扱説明書の以下のページには、適切な間隔でスクーターの点検を実施できるようにメンテナンススケジュールが記載されています。

これらの説明は、スクーターが意図された設計目的にのみ使用されることを前提としたものです。高速で運転し続けている場合や、異常に濡れた、または埃の多い条件下で運転している場合、メンテナンススケジュールに指定されている回数よりもより頻繁な点検が必要になります。お客様のニーズや用途に合った適切な推奨事項については、**KYMCO**正規販売店にお問い合わせください。

- 注記：常に、本取扱説明書内にある点検・メンテナンス推奨事項とスケジュールに従うようにしてください。

警告

スクーターが転倒したり、事故に巻き込まれた場合は、自分自身である程度の修理を行うことが可能である場合でも、**KYMCO**正規販売店にすべての主要パーツの点検を必ず依頼してください。

スクーターのメンテナンスが不適切であったり、乗車する前に問題を修正しなかった場合事故へとつながる恐れがあり、深刻な怪我あるいは死亡事故を引き起こす可能性があります。

警告

スクーターのメンテナンスを実施する時に、エンジンを始動する必要がある場合があります。室内や車庫でスクーターのエンジンを稼働すると危険です。排気ガスには無色・無臭の一酸化炭素が含まれており、死亡または重傷を引き起こす可能性があります。エンジンの稼働は、適切に換気された場所でのみ、できれば野外でのみ行うようにしてください。

メンテナンス

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュール期間には、毎回乗車前の点検を実施してください。スケジュールの頻度は走行距離計の値または月数のうち、いずれか早いほうに基づいて判断してください。

メンテナンススケジュールの説明記号

I: 必要に応じて点検、清掃、調整、潤滑油差し、または交換を実施 C: 清掃 R: 交換 A: 調整 L: 潤滑油差し D: 診断

次の2ページにわたり掲載されているメンテナンススケジュールには、**G-DINK 250i**スクーターを良好な動作状態に保つために必要となるメンテナンスについて記述されています。メンテナンス作業は、**KYMCO**の規格や仕様に基づいて、適切なトレーニングを受け、整った設備を有した技術者が実施する必要があります。**KYMCO**正規販売店はすべて、これらの要件を満たしています。

- ◆ 適切なツールやサービスデータを有し、技術的な資格があるのでなければ、**KYMCO**正規販売店に点検を依頼してください。
- ◆ 安全のため、これらの事項は**KYMCO**正規販売店のみが点検することを推奨します。**KYMCO**では、定期的なメンテナンスサービスの終了後には、毎回**KYMCO**正規販売店がスクーターのロードテストを実施することを推奨します。

注記：

1. 走行距離計で測定された値が高めの場合は、ここで設定した頻度を繰り返してください。
2. 異常に濡れたエリアやほこりの多いエリアでスクーターに乗車している場合は、点検の頻度を多くしてください。
3. 雨天時の乗車やエンジン全開での乗車をしている場合は、点検の頻度を多くしてください。
4. スパークプラグ交換後は**5000 km**毎に清掃し、**10000 km** 毎に交換してください。
5. ウェイトローラー&スライドピースは毎年、または**5000km** 毎のうち、いずれか早いほうに基づいて交換してください。交換するには熟練した技術が必要です。
6. クーラントは**20000 km** 毎、または**2年**に**1回**交換してください。交換には熟練した技術を要します。
7. ブレーキオイルは**1年**に**1回**交換してください。交換するには熟練した技術が必要です。

メンテナンス

4

| 項目 | 頻度 | いずれか早い方 を選択 | 走行距離計の測定値 | | | | | | | 参照ページ | |
|----------------------|----|----------------|-----------|---|---|----|----|----|----|-------|----|
| | | | X1000km | 1 | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | | 30 |
| | | | 月数 | 1 | 6 | 12 | 18 | 24 | 30 | | 36 |
| * エアクリナー | | 注記 2 | | R | R | R | R | R | R | 34 | |
| スパークプラグ | | 注記 4 | | I | R | I | R | I | R | 35 | |
| * スロットルの作動 | | | | I | I | I | I | I | I | 34 | |
| * バルブの隙間 | | | A | | A | | A | | A | | |
| * 燃料経路 | | | | | I | | I | | I | | |
| クランクケースの通気孔 | | 注記 3 | C | C | C | C | C | C | C | | |
| * エンジンオイル | | | R | R | R | R | R | R | R | 30 | |
| * エンジンオイル ストレーナスクリーン | | | C | C | C | C | C | C | C | | |
| * スロットル本体 | | | I | I | I | I | I | I | I | | |
| * ラジエータークーラント | | 注記 6 | I | I | I | I | R | I | I | | |
| * バッテリー | | | I | I | I | I | I | I | I | | |
| * ウェイトローラー & スライド | | | | I | R | I | R | I | R | | |

メンテナンス

| 項目 | | 頻度 ↓ | いずれか早い方 を選択 → | | 走行距離計の測定値 | | | | | | 参照ペ ージ |
|----|--------------|---------|------------------|-----|-----------|-----|----|-----|----|-----|-----------|
| | | | X1000km | 月数 | 1 | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | |
| | | | | 1 | 6 | 12 | 18 | 24 | 30 | 36 | |
| * | トランスミッションオイル | | | R | | R | | R | | R | 33 |
| * | 駆動ベルト | | | | | | | | | R | |
| ** | クラッチシューの消耗 | | | | | | | | | | |
| | ブレーキオイル | | | | | R | | R | | R | 38 |
| | ブレーキパッドの消耗 | | | | | | | | | | 39 |
| | ブレーキレバー | | | | | | | | | | |
| * | ブレーキライトスイッチ | | | | | | | | | | |
| * | 電気系統 | | | | | | | | | | |
| * | サスペンション | | | | | I/L | | I/L | | I/L | |
| * | ヘッドライト照準 | | | I/A | | I/A | | I/A | | I/A | |
| * | ナット、ボルト、留め具 | | | | | | | | | | |
| ** | 車輪/タイヤ | | | | | | | | | | 41 |
| ** | ステアリングベアリング | | | | | | | | | | |

メンテナンス

エンジンオイル

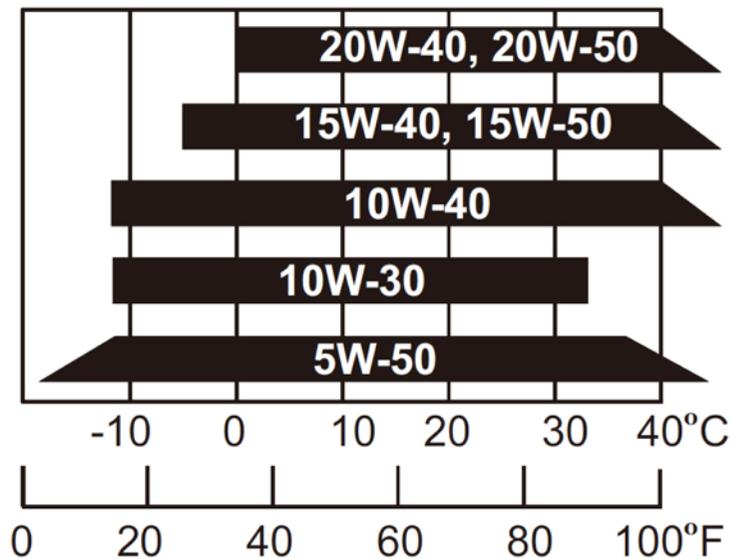
推奨するエンジンオイル

スクーターの耐用年数を長くするため、高品質の4ストロークエンジンオイルを使用してください。APIサービス分類でSJ評価以上のオイルのみを使用してください。

エンジンオイルの粘度：SAE 10W-40

この粘度が入手できない場合は、以下の表に従って代替のエンジンオイルを選択してください。

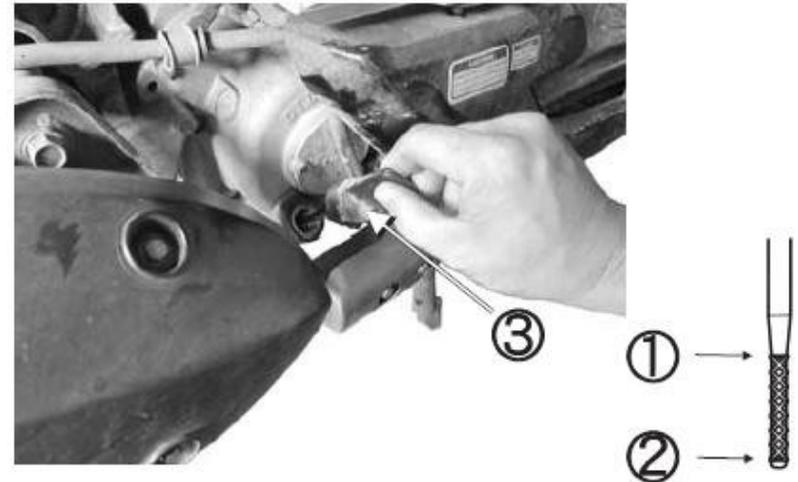
エンジンオイルの粘度



エンジンオイル交換容量：0.9 L

エンジンオイルレベルの点検

スクーターに乗車する前に、毎日エンジンオイルレベルを確認してください。レベルは、オイルフィルターキャップ/オイルケージ□の上位マーク□から下位マーク□のレベルの間に保つ必要があります。



1. エンジンを始動し、数分間アイドル状態にしてください。
2. エンジンを停止して、平らな地面でスクーターをセンタースタンドの上に乗せます。
3. 数分後にオイルフィルターキャップ/オイルケージを外

メンテナンス

し、きれいに拭き取り、ねじ込まずにオイルフィルターキャップ/オイルケージを再度挿入します。ださい。オイルレベルは、オイルフィルターキャップ/オイルケージの上位マークから下位マークの間にくる必要があります。

4. 必要に応じて、オイルケージの上位マークにオイルレベルが触れるように、指定オイルを追加してください。補給しすぎないようにしてください。
5. オイルフィルターキャップ/オイルケージ□を元に戻します。オイル漏れがないか確認してください。

⚠ 警告

エンジンと関連部品が非常に熱くなる可能性があります。やけどしないように、オイルレベルを点検する際には十分ご注意ください。必要に応じて、これらのエリアで作業を開始する前に、エンジンと排気システムを冷ましてください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルの品質は、エンジンの寿命に影響を及ぼす主な要因です。メンテナンススケジュールの指定に従って、スクーターのエンジンオイルを交換してください。

- 注記：オイルを迅速に完全に排出できるように、エンジンが通常の作動温度になっている時に、スクーターをセンタースタンドの上に乗せた状態でエンジンオイルを交換してください。



1. オイルフィルター/オイルケージ□を右クランクケースカバーから取り出します。
2. 左クランクケースの下に適切な容器（ドレンパン）を置いてください。

メンテナンス

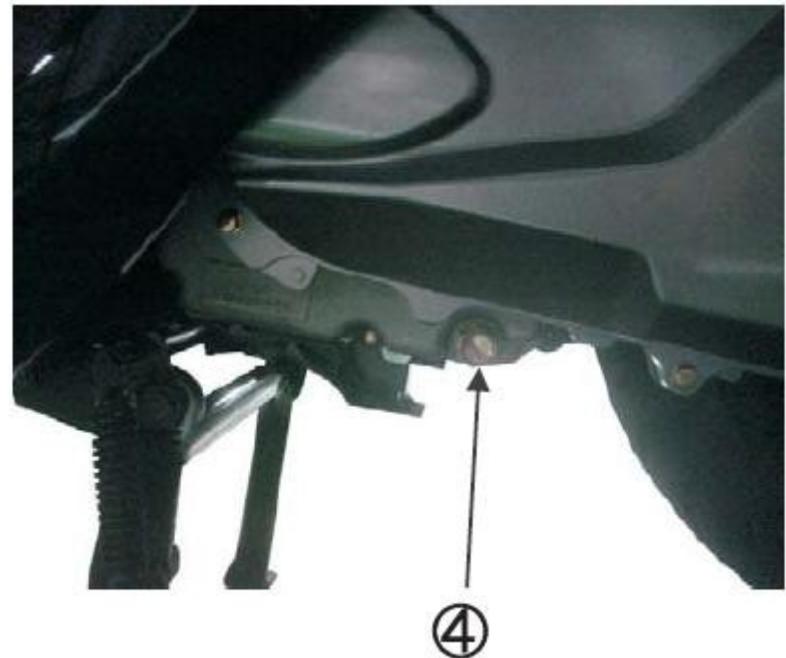
3. クランクケースからオイルドレインプラグ④を取り出して、オイルを排出します。
4. ドレインプラグを元に戻して、指定のトルクで締め付けます。
5. 以下に表示されている量を参照してオイルをエンジンに追加し、オイルフィルター/オイルケージを元に戻します。

| | G-DINK 250i |
|-----|-------------|
| 全容量 | 1.1L |
| 交換時 | 0.9L |

6. エンジンを始動し、2~3分間アイドル状態にしてください。
7. エンジンを停止して、平らな地面でスクーターをセンタースタンドの上に乗せて、オイルケージのオイルレベルを確認してください。
8. 必要に応じてオイルレベルを調整します（レベルがオイルケージの上位マークに達するようにしてください）。オイルケージを交換し、漏れがないか確認します。

⚠ 注意

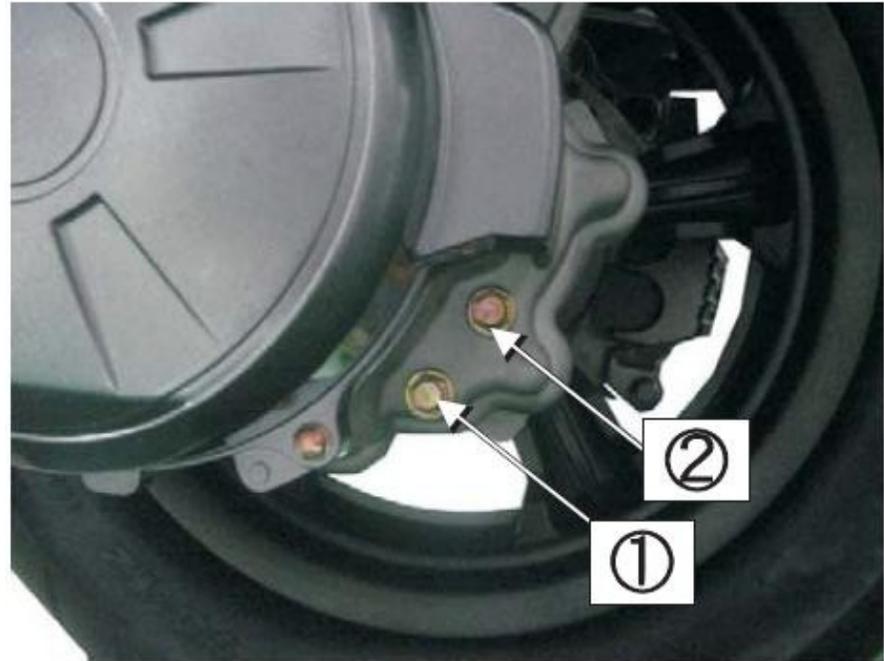
湯量が不十分な状態でスクーターのエンジンを稼働すると、エンジンに重大な損傷を与える可能性があります。



メンテナンス

トランスミッションオイルの交換

1. スクーターをセンタースタンドの上に乗せます。
2. トランスミッションオイルドレンボルト①を取り外します。
3. トランスミッションフィルターボルト②を外し、後輪をゆっくりと回してオイルを排出します
4. ドレンボルトを指定トルクで締め付けます。
5. 以下に表示されている容量になるまで、推奨されているオイルをトランスミッションに注入します。



トランスミッションオイルの種類：SAE 90

| | G-DINK 250i |
|-----|-------------|
| 全容量 | 0.23L |
| 交換時 | 0.2L |

5. トランスミッションフィルターボルトを指定のトルクで締め付けます。

メンテナンス

エアフィルターエレメントの交換

適切なツールやサービスデータや、技術的な資格がない場合、エアクリーナーのフィルターエレメント①の定期的な点検は、KYMCO正規販売店に依頼してください。

異常に濡れたエリアやほこりの多いエリアで乗車している場合は、エレメントを点検する頻度を多くしてください。

⚠ 注意

誤ったKYMCOエアクリーナーエレメント、または同等の品質を持たない純正エアクリーナーエレメント以外を使用した場合、エンジンの早期消耗あるいは性能上の問題の原因になることがあります。

スロットルの作動

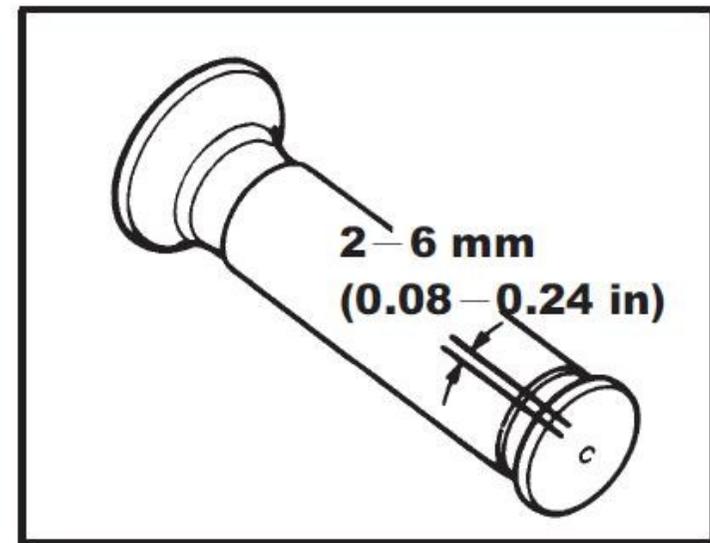
1. 毎回乗車の前には、左右フルステアリングポジションの状態、全開から全閉ポジションまでのスロットルグリップの回転がスムーズかどうかを点検してください。
2. スロットルグリップフランジのスロットルグリップの遊びを計測します（右の図を参照）。

スロットルの遊び：

0.08-0.24 インチ (2.0 - 6.0 mm)



①



メンテナンス

スパークプラグ

小さなワイヤブラシまたはスパークプラグ用清掃機でスパークプラグにある炭素堆積物を取り除いてください。清掃後（または新しいスパークプラグを設置した後）、スパークプラグギャップ隙間ゲージを使って、スパークプラグのギャップが指定された制限内になるように再調節してください。スパークプラグは定期的に交換する必要があります。

炭素堆積物を取り除く際には、常に取り外したスパークプラグの磁器製の先端部を確認するようにしてください。ここの色で、標準のスパークプラグがあなたの乗車習慣に適しているかどうか分かります。通常の使用では、スパークプラグの磁器製の先端部は薄茶色または黄褐色になります。

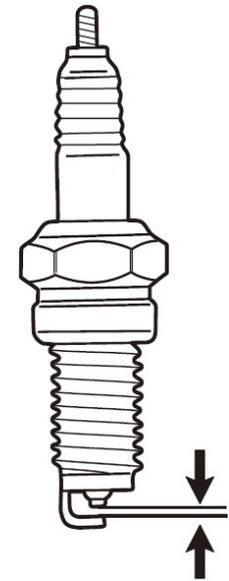
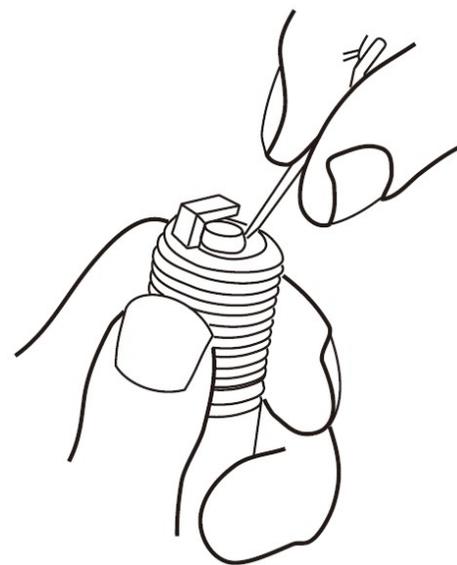
スパークプラグの磁器製の先端部が真っ白または艶があるように見える場合、作動時にスパークプラグが極度化しています。この場合、標準のスパークプラグを熱領域がより低いスパークプラグに交換する必要があります（KYMCO正規販売店にお問い合わせください）。

推奨されるスパークプラグ：DPR6EA-9 (NGK)

⚠ 注意

不適切なスパークプラグはエンジンに正しくフィットしなかったり、熱領域が適切でないことがあります。これによりエンジンに深刻な損傷が発生する場合がありますが、これらは保証の対象となりません。エンジンに深刻な損傷が発生する恐れがあるため、熱領域が適切でないスパークプラグは絶対に使用しないでください。

スパークプラグのギャップ：(0.9 mm)



メンテナンス

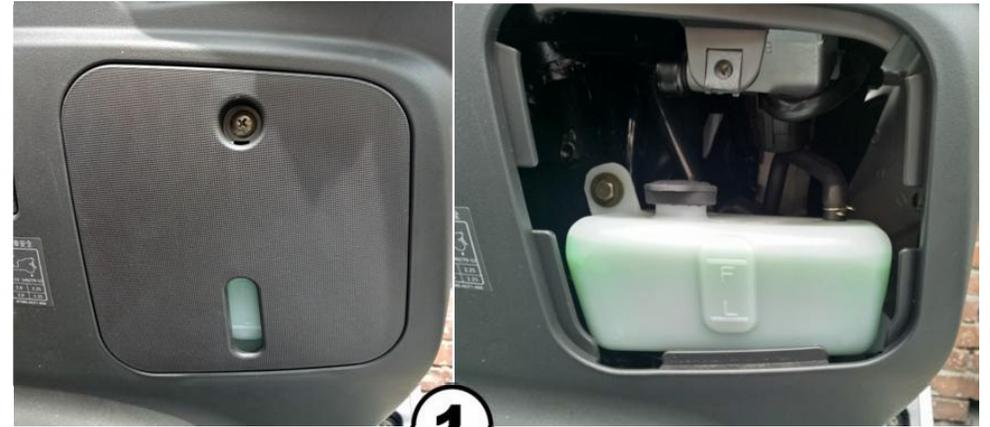
クーラントレベルの点検

予備タンクは右内側にあります。エンジンが通常の作動温度になっている時にスクーターを直立させ、左縁にあるのぞき窓①からクーラントレベルを確認してください。

クーラントレベルが下位マーク②より下にある場合、フロアマットを取り外して、予備タンクのフタとキャップを外し、上位マーク③に達するまでクーラント調合液を足してください。

⚠ 警告

クーラントは予備タンクにのみ追加してください。ラジエーターのキャップを外して、クーラントを追加しようとししないでください。ラジエーターのクーラントには圧力がかかっており、非常に熱く、深刻なやけどの原因となる可能性があります。



メンテナンス

クーラントの交換

適切なツールを持ち、サービスデータにアクセスでき、技術的な資格を有するのではありません、スクーターのクーラントの交換はKYMCO正規販売店に依頼してください。

- 注記：クーラントは常に予備タンクに追加してください。ラジエーターのキャップを外して、クーラントを追加しようとししないでください。

⚠ 警告

エンジンが熱くなっている時にラジエーターのキャップを外すとクーラントが噴き出し、深刻なやけどにつながる可能性があります。ラジエーターのキャップを外す前に、エンジンとラジエーターを常に冷ますようにしてください。

推奨クーラント

冷却系とエンジンに適切なタイプのクーラントが適量供給されるように、スクーターの点検を実施するのはお客様の責任となります。クーラントは良好な状態であり、凍結や過熱、腐食を防ぐため、適切な割合の不凍液と蒸留水が含まれている必要があります。

クーラントを点検する際には、アルミニウムエンジン用に特別に配合された腐食防止剤を含む高品質のエチレングリコール不凍液のみが使用されるように準備をしてください（不凍液の容器にあるラベルを参照）。

スクーターの冷却系には、不凍液と蒸留水を50:50で混合した溶液が必要です。

この冷却溶液はほとんどの動作温度で推奨されるもので、優れた腐食防止を提供します。

⚠ 注意

不凍液の成分には、低ミネラル飲用水あるいは蒸留水のみを使用してください。ミネラル含量や塩分が高い水は、アルミニウムエンジンに有害となる可能性があります。ケイ酸塩抑制剤を含むクーラントを使用すると、ウォーターポンプシールの消耗が早まったり、ラジエーターが詰まる可能性があります。水道水を使用すると、エンジンが損傷する可能性があります。

氷点下の気温になる環境でスクーターを使用する場合は、エンジンの凍結防止を補強するため、KYMCO正規販売店によって備え付けられる不凍液の濃度を高くする必要があります。この高濃度溶液は、蒸留水と比較して不凍液の割合が60%以上にならないようにしてください。

温かい時期には、不凍液の割合を標準の割合に戻してください。40:60（40%の不凍液）未満の割合の濃度では、適切な腐食防止効果はありません。

メンテナンス

ブレーキオイル

ブレーキオイルレベルの点検

スクーターが直立になった状態で、フロントブレーキとリアブレーキのオイルレベルを確認してください。

レベルは下位マークより上にくる必要があります。レベルが「L」下位マークの位置またはそれより下にある場合は、ブレーキパッドが消耗していないか確認してください。

- 注記：その他の確認 — 液が漏れていないか確認してください。ホースや取付け具が劣化していたり、ひび割れていないか確認してください。

⚠ 警告

ブレーキパッドが消耗している場合は、直ちに交換する必要があります。パッドが消耗していない場合は、ブレーキシステムの漏れを点検してください。ブレーキが完全に正常に運転できる状態でない限り、スクーターに乗車しないでください。

ブレーキオイルの種類：DOT 4



メンテナンス

⚠ 警告

適切にブレーキが動作するように、調整ナットの溝がブレーキアームのピンと一直線になっているか確認してください。

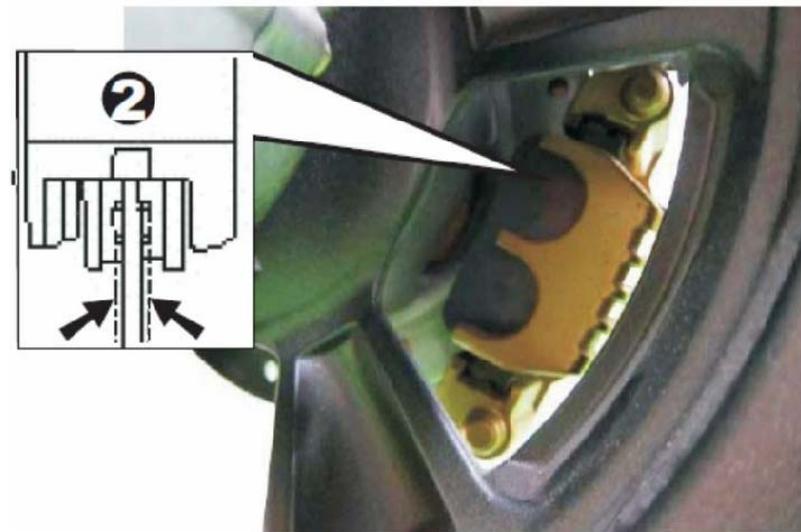
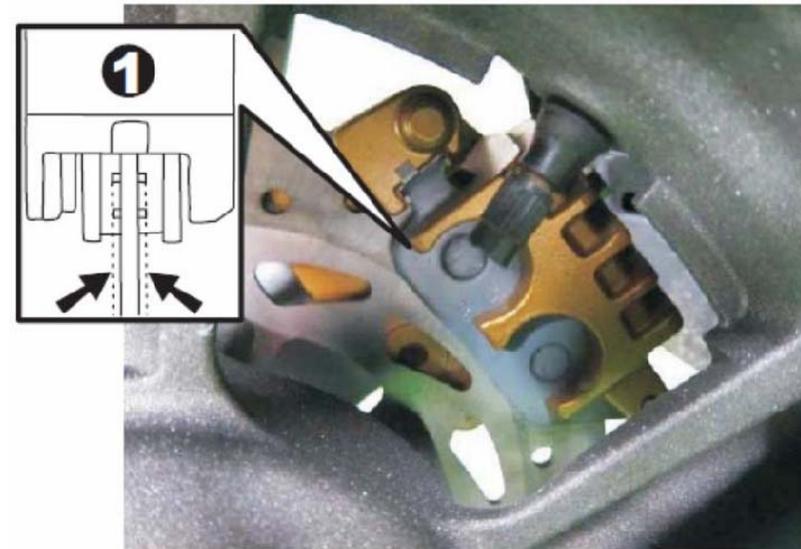
ブレーキパッドとブレーキシューの厚みを点検し、ブレーキが適切に機能できるだけの十分な厚みがあるか確認してください。

1. フロントブレーキパッドのウェアインジケータの溝が目で確認できなくなっている場合①、ブレーキパッドが消耗し交換が必要なことを示します。
2. リヤブレーキパッドのウェアインジケータの溝が目で確認できなくなっている場合②、ブレーキパッドが消耗し交換が必要なことを示します。

⚠ 警告

乗車中にブレーキレバーを頻繁に使うと、ブレーキの消耗が早まります（ブレーキのドラッグ）。

KYMCO正規販売店に連絡し、ブレーキ系を点検してください。



メンテナンス

バッテリー & ヒューズ

バッテリー

KYMCO スクーターにはメンテナンス不要タイプの（密封型）バッテリーが搭載されており、バッテリーの電解質レベルを確認したり、蒸留水を足す必要はありません。

- 注記：バッテリーが弱まっている、あるいは電解液が漏れていると感じる場合は（ハードスタートやその他の電気上の問題の原因になります）、直ちにKYMCO正規販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

バッテリーはメンテナンス不要タイプであり、キャップのストリップを取り外すと、回復不能な損傷を受ける可能性があります。

ヒューズ

ヒューズの不具合が頻繁に発生する場合、これは通常、電気系統の短絡または過負荷を示しています。

- 注記：KYMCO正規販売店に連絡し、電気系統の診断と修理をおこなってください。

⚠ 警告

指定された定格と異なる定格のヒューズは、絶対に使用しないでください。電気系統への重大な損傷あるいは火災の原因となる可能性があります、ライトやエンジン出力を失うことになるため、大変危険です。

携帯電話の充電器は携帯電話専用です。他の電化製品を使用した場合、ヒューズが破損する原因となる可能性があります。

ヒューズリスト

30A：充電ヒューズ。

15A：メインヒューズ。

15A：ヘッドライト-HI/LOヒューズ。

15A：イグニッションヒューズおよびファンヒューズ。

10A：ABS ECUヒューズ。

25A：ABSモーターヒューズ。

メンテナンス

タイヤ

警告

以下の警告に従わなかった場合、タイヤの故障による事故が発生する可能性があります。スクーターのタイヤはスクーター本体と路面を仲介する重要な接点です。ライダーおよび通行人の個人の安全は、スクーターのタイヤの状態に依存しています。

次の指示に従ってください。

- タイヤの状態とタイヤ空気圧を確認し、乗車前には毎回空気圧を調整してください。
- スクーターに過度な負荷をかけないでください。
- 指定された制限までタイヤが消耗している時、または切断部や亀裂などの損傷が見つかった場合は、タイヤを交換してください。
- 本取扱説明書内指定されている適切なサイズおよびタイプのタイヤを常に使用してください。
- タイヤを取り付けたあとには、ホイールのバランスを取ってください。
- 取扱説明書の本セクションは注意深くお読みください。妥当なタイヤの慣らし走行を行わなかった場合、タイヤがスリップしたり、制御不能に陥るなどの可能性があります。グリップが制限されるため、新しいタイヤで乗車するときは特に注意してください。本マニュアルの慣らし走行の推奨セクションの記載にある通り、適切なタイヤの慣らし走行をおこなってください。最初の160 kmは、ハードアクセラレーション、ハードコーナリング、ハードブレーキは避けてください。

- 注記：定期的なメンテナンススケジュールに記載されている間隔で、タイヤの空気圧とタイヤトレッドの状態を確認してください。安全性とタイヤの耐用期間を最大限に高めるため、タイヤ空気圧はもっと頻繁に点検してください。

タイヤ空気圧

タイヤの空気圧が不十分な場合、タイヤの消耗が早くなるだけでなく、スクーターの安定性にも影響を及ぼします。タイヤに十分な空気が入っていない場合、スムーズにコーナリングすることが難しくなり、タイヤが膨らみ過ぎていると地面に接触するタイヤ部分が減って、スリップや制御不能の原因となります。スクーターのタイヤ空気圧が、常に指定されている制限内になっているか確認してください。

- 注記：タイヤ空気圧は、タイヤが低温の時にのみ調節してください。

フロントタイヤ（ライダーのみ）：24.9 PSI (1.75 kgf/cm²)

リアタイヤ（ライダーのみ）：29.0 PSI (2.00 kgf/cm²)

フロントタイヤ（ライダー&パッセンジャー）：24.9 PSI (1.75 kgf/cm²)

リアタイヤ（ライダー&パッセンジャー）：32.0 PSI (2.25 kgf/cm²)

メンテナンス

スクーターの洗車

1. 冷水でスクーターをくまなく洗い流し、汚れを取り除いてください。
 2. スポンジか柔らかい布を使って、冷水でスクーターを洗ってください。マフラーの排気口や電気部品に水を向けないようにしてください。
 3. 中性洗剤と水の液剤で湿らせた布またはスポンジを使って、プラスチック部分を洗ってください。汚れた部分を優しくこすり、真水で頻繁に洗い流してください。ブレーキオイルや化学溶剤がスクーターに触れないように注意してください。プラスチックや塗面に損傷を与えます。
- 注記：スクーターの洗車後や雨の中での乗車直後に、ヘッドライトレンズとスピードメーターレンズの内側が曇ることがあります。ヘッドライトレンズとスピードメーターレンズの内側にある結露は、ヘッドライトからの熱により徐々になくなります。洗車後、ヘッドライトを点灯したままエンジンを稼働し、結露をなくしてください。
4. 清掃後、多量の清浄水でスクーターをくまなく洗い流してください。強力洗剤の残留物により、合金部品が腐食する可能性があります。
 5. スクーターを乾かして、エンジンを始動し、数分間稼働させたままにします。
 6. スクーターに乗る前に、ブレーキのテストを行ってください。通常のブレーキの性能に戻るまで、数回使用する必要がある場合があります。
- 注記：ブレーキ部品に水がかかるため、スクーターを洗車した直後は、ブレーキの効率性が一時的に低下することがあります。事故を避けるため、停止距離はより長くなるものと想定してください。

仕上げ：

スクーターの洗車後には、市販されているスプレークリーナー/研磨剤、または質の高い液体ワックスやペーストワックスを使って仕上げをおこなってください。スクーターや自動車専用の、表面を傷つけない研磨剤またはワックスのみを使用してください。容器に記載されている指示に従って、研磨剤またはワックスを適用してください。

メモ 第5章 – 排ガス規制

クランクケース排ガス浄化システム

G-DINK 250iには閉鎖型のクランクケースシステムが搭載されています。ブローバイガスは、吸気システムを介して燃焼室に戻されます。このシステムにより、ブローバイガスが大気中に入ることがありません。

排気ガス浄化システム

G-DINK 250iスクーターからの排気ガスは、エンジン設計、工場で設定された燃料供給、点火設定、排気システム設計によって制御されています。このシステムには、排気システム内のカタライザーも含まれます。

蒸発ガス浄化システム

蒸発ガス浄化システムは、ガソリン蒸気が燃料タンクや燃料システムから大気中に逃げるのを防止するために使用されます。

ノイズ排出浄化システム

G-DINK 250iスクーターのエンジン、吸気・排気システムは、連邦、州および地域の騒音レベル要件を満たすように設計されています。これらの騒音レベル要件への準拠に影響をおよぼすため、エンジン、吸気・排気部品は改造しないでください。

G-DINK 250iスクーターからの騒音・排出レベルを変更する可能性があるKYMCO製の部品を、改造したり変更したりしないでください。

第6章 – 仕様 筐体

寸法

| | |
|---------------|---------|
| 全長 | 2115 mm |
| 全幅 | 770 mm |
| 全高 | 1360 mm |
| ホイールベース | 1450 mm |

容量

| | |
|------------------------|-------|
| エンジンオイル（交換） | 0.9L |
| トランスミッションオイル（交換） | 0.2L |
| 燃料タンク | 9L |
| 正味重量 | 182kg |

エンジン

| | |
|-----------------|----------------|
| タイプ | 4ストローク、液冷式SOHC |
| 排気量 | 249cc |
| ボア&ストローク | 72.7 X 60 mm |
| 圧縮比 | 10.3 : 1 |
| 最大場力エンジン | 19.9ps/7500rpm |
| スパークプラグ | DPR6EA-9 |
| アイドル速度 | 1700 RPM |
| 冷却系 | 水冷式 |
| 起動システム | 電気スターター |
| トランスミッション | オートマチックCVT |

| | |
|--------------------|-----------|
| タイヤのサイズ、フロント | 110/70-12 |
| タイヤのサイズ、リヤ | 120/70-12 |
| ブレーキ（フロント） | ディスクタイプ |
| ブレーキ（リヤ） | ディスクタイプ |

電気関係

| | |
|-------------------------|-----------------|
| イグニッションタイプ | デジタル誘導式イグニッション |
| イグニッションタイミング | ECUコントロール |
| バッテリー | 12V7AH |
| ヘッドライト | 12V 35W/35W |
| ブレーキライト尾灯 | 12V 21W/10W |
| ウインカーライト（フロント/リヤ） | 12V 5W/5W(LED) |
| ヒューズ | 30A/25A/15A/10A |

KWANG YANG MOTOR CO.,LTD.

**NO.35 Wan Hsing Street, San Min District Kaohsiung, Taiwan,
Republic of China (台湾)**

電話 : 886-7-3822526

FAX : 886-7-3950021

制作 : KWANG YANG Motor Co., Ltd.

初版、2017年6月

無断複写・転載を禁じます。KWANG YANG Motor Co., Ltd.の書面による許可なく、複製
または無断使用することを禁じます。

T300-SP50BA-A1

車両から本取扱説明書を取り出さないでください。安全に関する重要な情報が含まれているため、車両を運転する前に、本マニュアルをよくお読みください。

